千葉市感染症発生動向調査情報

2018年 第19週 (5/7-5/13) の発生は？

1　定点報告対象疾患（五類感染症）

上段：患者数
下段：定点当たりの患者数

「定点当たりの患者数」とは
報告患者数/報告定点数。

報告のあった定点数	19週	18週	17週	16週
小児科	18	18	15	18
眼科	5	5	5	5
ｲﾝﾌﾙｴﾝｻﾞ	28	28	24	28
基幹定点	1	1	1	1

定点	感染症名	千葉市 注意報	5/7-5/13 19週	4/30-5/6 18週	4/23-4/29 17週	4/16-4/22 16週	千葉県 4/30-5/6 18週
小児科	RSウイルス感染症		2 0.11	1 0.06	12 0.80	3 0.17	9 0.07
	咽頭結膜熱		1 0.06	0 0.00	2 0.13	0 0.00	45 0.34
	A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	○	47 2.61	19 1.06	39 2.60	49 2.72	179 1.37
	感染性胃腸炎		113 6.28	43 2.39	115 7.67	103 5.72	248 1.89
	水痘	○	20 1.11	2 0.11	19 1.27	7 0.39	30 0.23
	手足口病		0 0.00	0 0.00	0 0.00	2 0.11	1 0.01
	伝染性紅斑		1 0.06	0 0.00	0 0.00	0 0.00	10 0.08
	突発性発しん	○	19 1.06	9 0.50	17 1.13	13 0.72	42 0.32
	ヘルパンギーナ		3 0.17	0 0.00	0 0.00	1 0.06	3 0.02
	流行性耳下腺炎		1 0.06	2 0.11	2 0.13	2 0.11	7 0.05
インフル	ｲﾝﾌﾙｴﾝｻﾞ（高病原性鳥ｲﾝﾌﾙｴﾝｻﾞを除く）		5 0.18	5 0.18	16 0.67	31 1.11	41 0.20
眼科	急性出血性結膜炎		0 0.00	1 0.20	0 0.00	0 0.00	1 0.03
	流行性角結膜炎		1 0.20	0 0.00	0 0.00	3 0.60	15 0.43
基幹定点	細菌性髄膜炎 （髄膜炎菌性髄膜炎を除く）		0 0.00	0 0.00	0 0.00	0 0.00	0 0.00
	無菌性髄膜炎		0 0.00	0 0.00	0 0.00	0 0.00	0 0.00
	マイコプラズマ肺炎		0 0.00	0 0.00	0 0.00	0 0.00	0 0.00
	クラミジア肺炎 （オウム病を除く）		0 0.00	0 0.00	0 0.00	0 0.00	0 0.00
	感染性胃腸炎 （ロタウイルスに限る）		0 0.00	0 0.00	0 0.00	0 0.00	0 0.00

★★：流行中　★：やや流行中　◎：増加　○：やや増加　→：変化なし　↓：やや減少　↓↓：減少

2　全数報告対象疾患（16件）

病名	性	年齢層	診断（検査）方法	病名	性	年齢層	診断（検査）方法
結核	男性	40歳代	病原体等の検出	侵襲性ｲﾝﾌﾙｴﾝｻﾞ菌感染症	男性	60歳代	病原体の分離・同定
結核	男性	50歳代	病原体等の検出				
結核	女性	80歳代	画像診断	侵襲性肺炎球菌感染症	男性	10歳未満	病原体の分離・同定
腸管出血性大腸菌感染症	男性	30歳代	病原体の検出及びベロ毒素の確認		男性	80歳代	
					女性	60歳代	
A型肝炎	男性	40歳代	血清IgM抗体の検出		女性	90歳代	
A型肝炎	男性	50歳代	血清IgM抗体の検出	水痘（入院例）	女性	10歳代	臨床診断
A型肝炎	女性	60歳代	血清IgM抗体の検出	梅毒	男性	60歳代	血清抗体の検出
急性脳炎	女性	10歳未満	高熱及び中枢神経症状等	百日咳	女性	10歳未満	病原体遺伝子の検出

・第19週は、　結核3件（69）、腸管出血性大腸菌感染症1件（2）、A型肝炎3件（7）、急性脳炎1件（3）、侵襲性ｲﾝﾌﾙｴﾝｻﾞ菌感染症1件（1）、侵襲性肺炎球菌感染症4件（11）、水痘（入院例）1件（2）梅毒1件（10）、百日咳1件（17）の報告があった。

※　（）内は2018年の累積件数。但し、累積件数は速報値であり、データが随時訂正されるため変化します。

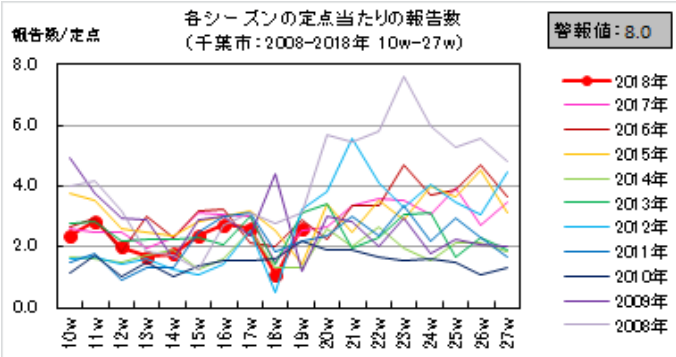
定点当たり報告数　第19週のコメント

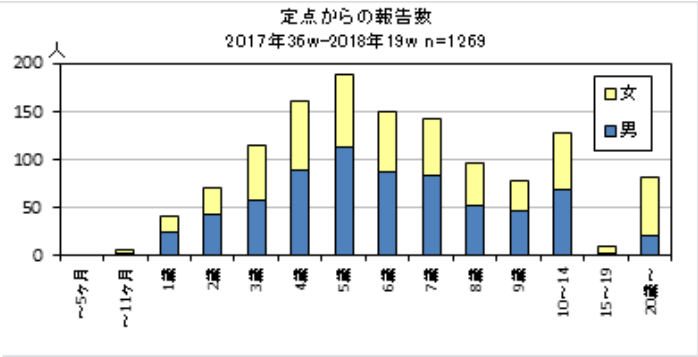
＜A群溶血性レンサ球菌咽頭炎＞前週より増加し2.61となった。過去10年の同時期と比べるとやや多め。
＜水痘＞前週より増加し1.11となった。過去10年の同時期と比べるとほぼ平均レベル。
＜突発性発しん＞前週より増加し1.06となった。過去10年の同時期と比べると多め。

■ トピック ■

＜A群溶血性レンサ球菌咽頭炎＞

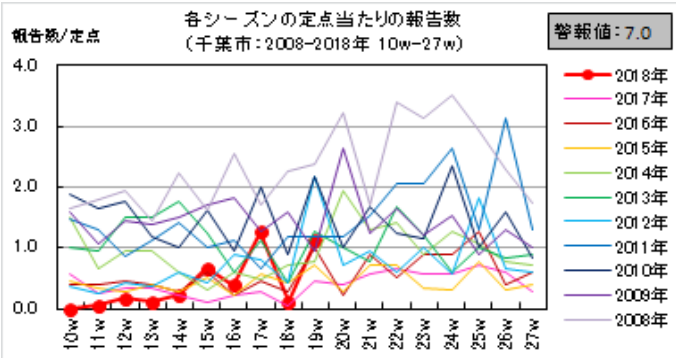
全国レベルの第18週は、過去10年の同時期と比べると少ない状況となっています。都道府県別では鳥取県、新潟県、鹿児島県の順で多く報告されています。千葉県はほぼ全国レベルと同等となっています。千葉市の第19週は前週より増加し2.61となり、過去10年の同時期と比べるとやや多めとなりました。区別の発生状況は、緑区（5.5/定点）で最多で、同区の5歳で最も多く発生報告がありました。今シーズンである2017年第36週から2018年第19週までの累積報告数（n=1269）によると、性別では男性が54.5%（692名）、女性が45.5%（577名）で、年齢階級別では5歳（14.9%：189名）、4歳（12.7%：161名）、6歳（11.8%：150名）の順で多くなっています。

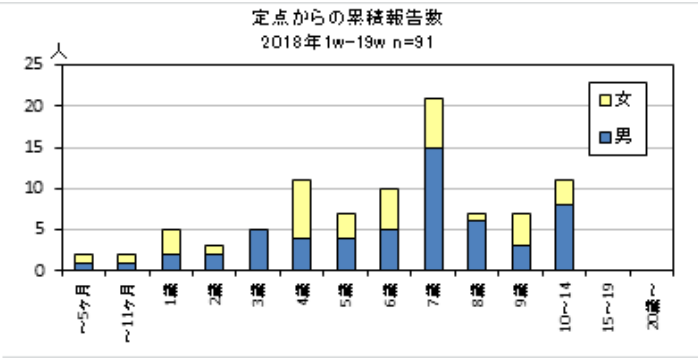


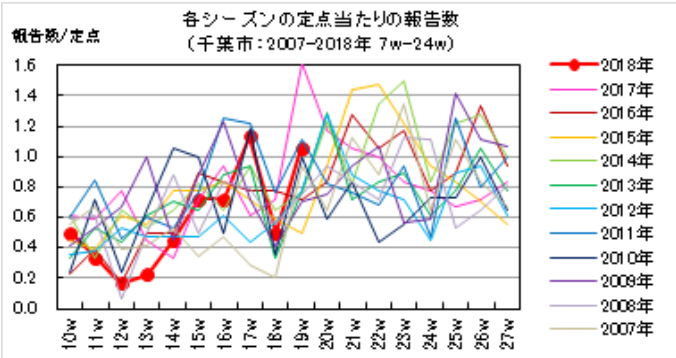
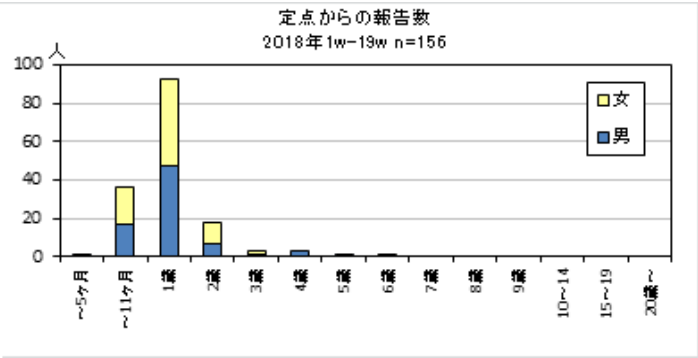


＜水痘＞

全国レベルの第18週は、過去10年の同時期と比べると僅かなレベルとなっています。都道府県別では福島県、沖縄県、福岡県の順で多く報告されています。千葉県は全国レベルと比べると少なめとなっています。千葉市の第19週は前週より増加し、1.11となり過去10年の同時期と比べるとほぼ平均レベルとなりました。区別の発生状況は、若葉区（4.5/定点）で最多で、同区の6歳で最も多く発生報告がありました。2018年第1週から第19週までの累積報告数（n=91）によると、性別では男性が61.5%（56名）、女性が38.5%（35名）で、年齢階級別では7歳（23.1%：21名）、4歳及び10歳代前半（共に12.1%：11名）の順で多くなっています。





＜突発性発しん＞

全国レベルの第18週は、過去10年の同時期と比べると少なくなっています。都道府県別では徳島県、宮崎県、長崎県の順で多く報告されています。千葉県はほぼ全国レベルと同等となっています。千葉市の第19週は前週より増加し1.06となり、過去10年の同時期と比べると多めとなりました。区別の発生状況は、稲毛区（1.67/定点）で最多で、同区の6～11か月で多く発生報告がありました。2018年第1週から第19週までの累積報告数（n=156）によると、性別では男性が48.2%（77名）、女性が51.8%（79名）で、年齢階級別では1歳（59.6%：93名）、6-11か月（23.1%：36名）、2歳（11.5%：18名）の順で多くなっています。